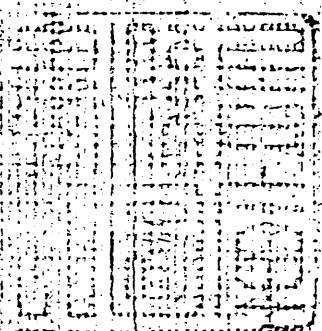


兵庫縣漁業慣行錄

鹹水漁業之部 卷之九



兵庫縣漁業慣行録卷之九 鹹水漁業之部
播磨国印南郡

第一章 漁制

第一款 控類

第一項 保護ニ関スル事

伊保崎村

漁具 鱒漁網ノ数ハ寛延年代七疊ニ制限アリシカ現

今ハ減シテ六疊トナシリ

第二項 漁税ニ関スル事

伊保崎村

鱒白魚鱒漁業ハ寛延三年明細帳ニヨルニ白魚鱒取運

上銀ノ一詳ナシス御菜米トシテ米一石一斗七升五合

投網運上銀四匁流ニ網運上銀三匁宛ヲ納メ維新後明

治六年ニテ米壹石壹斗七升五合ヲ稟税金拾三錢八厘
 ヲ漁業税金壹錢二厘ヲ唐網税金九厘ヲ流網税金壹錢
 四厘ヲ地引網税トシテ合計金五圓六拾錢六厘ヲ納メ
 シカ其後廢税トナレリ

梅井村

寛延三年明細帳ニ唐網御運上銀二匁宛トアリ明治十
 二年本村ヲ割テ伊保崎村ニ合シ從來ノ漁者亦之レニ
 編入スル來何等ノ納税ナシ

曾根村

文化三年頃ヨリ漁業ヲ創メシモ曾テ納税セシナシ

福泊村

手操網漁業運上トシテ年々銀札二匁宛維新後尚其額
 納メシカ明治四年飾戶縣設置以來廢税トナレリ

第二款 規約及慣例

第一項 保護ニ関スル事

伊保崎村

漁具 中高網ハ不良ノ漁具ナルニヨリ明治十四年一
 月加古飾東、飾西、揖東、揖西及本郡沿海漁者ニ於テ規
 約ヲ結ビ該漁具使用スルヲ停止ス規約書、南郡第一
 号ニ掲
 載ス

漁法 小網漁業者ハ甲乙丙丁ト其稼場ヲ設ケ投網採

總等ノ漁具類ヲ使用シ捕獲スルノ慣行ナリ○他人
 ノ採網ノ上ニ若シ誤テ配置スルハ其過失ノ釣ニ

掛リニ魚ヲ前配置者ニ取ルモアリ或ハ託ナシテ
 和解スルモアリテ一定セス○鰯魚立網、鰯立網使用

ノハ其場ニ限り一度叩クヲ許ス旨飾東郡外五

郡沿海漁者ト規約ス規約書ハ参考書印南郡第一号ニ掲載ス

曾根村

漁具 中高網使用停止ノ事ハ伊保崎村ニ全シ

漁法 鰯魚鰯網使用法ノ事伊保崎村ニ全シ

第二項 漁業ニ関スル事

第一節 漁權

伊保崎村

東、加古郡荒井村字八軒ノ沖合ヨリ西、本郡福泊村字八

家沖合マテノ間凡里程三里余沖手ハ廿五丁乃至廿八

丁マテノ間ハ本村共有ノ漁場トス

東、加古郡西二見村沖合ヨリ西、揖西郡葎屋村沖合迄凡

八里半陸ヲ距ル近キハ一里遠キハ、三里余ノ間ヲ字ニ

瀬ト云フノ談沿海漁村ノ入會漁業場トス

梅井村

蛤漁場ハ東、加古郡荒井村字八軒沖ヨリ本村字松村川

沖迄凡二十丁沖手ハ八丁乃至十二丁以内ハ本村ノ専

漁場トス

曾根村

東、明石郡明石浦沖合陸路國津名郡岩屋ヨリ本村明石ヨ

ヲ経テ西、揖西郡室津沖手錦東郡家島ニヤリニ至ル沿

岸十三里沖境ハ岩屋ヨリ前島本村ヨリニ至ル六里同

処ヨリ家島字ニヤリノ浦ニ至ル二里半ノ区域内ハ投

網及延繩漁入會ノ漁場トス

福泊村

當村字沖濱塩田地先ヲ距ル十丁ヨリ南ハ一里東西一

里ノ間ハ加古郡二見村錦東郡妻鹿村其他沿海各漁村

系

入會漁場トス

第二節

仲間加入ノ仕来

伊保崎村

新ニ漁業ヲ管マレトスルトキハ漁者頭ハ協議ヲ遂ケ
漁者一同ハ酒料壹圓ヲ出金セシムルノ例ナリ
小漁者閉止業セレトスルハ浦方取締ハ通達スル旨
沿海各郡漁者ト規約セリ規約書ハ参考書印南
曾根村

曾根村

新規營業セントスル片ノ例伊保崎村ニ同シ但金二圓
及酒券一枚外ヲ贈ルノ例ナリ

小漁者閉止業セレトスル片ノ規約伊保崎村ニ同シ

福泊村

小漁者閉止業セントスル片ノ規約伊保崎村ニ同シ

第三節

他方ノ漁夫来漁ニ係ル手續

伊保崎村

他府縣下ノ漁夫本村漁場ハ入漁スル片ハ見認ノ次第
之レヲ謝断ス若シ漁業セシモノアリタル片ハ漁舟及
漁具ヲ預リテ具浦漁者頭ハ照會スルノ例ナリ

第四節

販賣ノ仕方

伊保崎村

捕漁セシ魚類ハ直ニ本村字高須ノ魚市場ニ運輸シ即
金ヲ以テ取引ス又問屋ノ仲買ハ賣却スルハ三日目動
定ニシテ口銭ハ元一分トス
出買船ト唱ヘ他方ヨリ漁場へ来ルモノアリ以場合ニ
ハ市場直段ノ割合ニ照ラシ直賣スルナリ其販賣高
ハ漁獲ノ一割許トス

梅井村

捕獲之ハ給ハ伊保崎村字高須ノ市場へ賣捌キ或ハ漁者直ニ小賣スルモアリ

曾根村

捕漁セシ魚ハ十中ノ八九ハ出買船ニ即金ヲ以テ販賣ニ或ハ時トシテハ魚市場へ運輸シ鬻クナリ

福泊村

捕漁セシ魚ハ直ニ本村魚市場へ運輸シテ賣却シ即金ヲ以テ取引ス向屋口錢ハ一割トス

第五節

漁村維持并ニ救恤

伊保崎村

明治十七年四月ヨリ凶荒豫備ノ為メ同業申合セ向屋賣込金ノ内一分宛向屋へ預ケ貯蓄スルナリ

未不漁打續キ僅カニ税金ノ三ヲ貯ヘ以テ現今ニ至レ

難破船等アルハ仮令自己ニ漁獲物アリトモ之ヲ捨テ相助ケ若シ首尾克ク上陸スルハ遭難者ヨリ身今相應ノ謝儀ヲナシ或ハ饗應ヲナスナリ

第三項 雜事

伊保崎村

祝ヒ大漁ノ時ハ祝ヒトシテ談漁舟及漁具へ酒ヲ供シ且漁船へ竹ヲ立テ赤幟ヲ掲ケ雇夫ニ至ルニテ元カニ饗應スルナリ

雇夫給食 雇夫ニ食ヲ與フルハ元三四ナリ而シテ食ノ添へハ醬油及味噌ヲ以テ調理シ飲料ハ白湯ノミヲ用フ

祭祀禁忌 漁夫ノ信仰スル神ハ戎神、海神イワベ、神ナ
 リ毎歳陰曆正月十日 六月三日兩度ニ惠美酒講ト称シ漁業休
 業ス又毎歳正月ニハ毎漁船ニ注連縄ヲ飾リ鏡餅及
 酒ヲ供ヘ朝夕ニハ燈明ヲ点シ且此際漁業上一年ノ
 約束ヲ定ムルノ例ナリ○出産ノ片ハ産忌ト称シ一
 週間ハ出漁セザルノ例ナリ○油ハ仮令魚油トモモ
 屋内ニ落ス井ハ奠之レヲ厭フト云フヲ以テ漁者尤
 モ之レヲ戒シム但ニ現今ハ已マリ

曾根村

祭祀禁忌 漁夫ハ種々ノ神ヲ信仰スルモ格別ニ經子
 神ヲ信仰ス
 雜件 維新以前ニハ陰曆毎月十五日ヲ誕生日ト唱ヘ休
 業スルノ例アリタリ

第三款 祀則違例ノ處分

伊保崎村 曾根村

中高綱ヲ使用スル片ハ悉皆其漁具ヲ預ルニ規約セ
 リ規約書ハ参考書印由
 郡第一号ニ掲載ス

第三章 漁撈

第一款 種類

第一項 品名

郡内産出ノ水産物品名左ノ如シ

烏賊 鱈魚 鱈魚 蛤 鮫

鱧 花魚 鰻 海鰻 鱈魚 鮫

鱧 鰻 車鰻 鰻 鱈魚 鮫

手長章魚 海鰻 鰻 雜喉 鱈魚 鱈魚

第二項 大小輕重

鰻

字化ヨリ凡七ヶ月ヲ經過シ四五寸トナル之ヲ五ビ

ナゴト云ヒ八朔陰ニ至リ凡七八寸トナル之ヲ鰻魚

ト云ヒ一年ニシテ凡一尺五寸トナル之ヲ鰻ト云フ

鯨

最モ佳味ナレハ春ト秋ニアリ
 伊保崎村調査ニ

鯨

乎化ヨリ元四五ヶ月ニエテ元三寸トナル之レヲ鯨ト云ヒ二年ニエテ元五六寸トナル之レヲ鯨ト云フ
 乎化ヨリ四五ヶ月ニエテ元五寸トナル之レヲヒイゴト云ヒ二年ニエテ元一尺五寸トナル之レヲハネト云ヒ三年ニエテ元二尺余トナル之レヲ鯨ト云フ

第二款 漁期

第一項 期節

捕魚採藻ノ期節左ノ如シ

品名		烏賊	鰯	鰯	蛤	鮫	鱧	鰻	海鰻
伊保崎村	期節		至自六月	至自三月	至自九月			至自七月	
梅井村	期節		至自七月	至自四月	至自九月			至自三月	
曾根村	期節		至自六月		十一月			至自九月	
福泊村	期節	至自八月						至自五月	
	良時季	十月						五月	五月

六頁 系

年、氣候ニヨリ異同アリト云モ海鯽ハ凡四月ニ来リテ
 九月ニ去リ鰯ハ九月ニ来リテ十一月ニ去ルト云フ
曾根村調

第三款 漁場

伊保崎村

区域 鱈魚漁場ハ本郡伊保崎港字高須沖合ヨリ大塩

村地先沖合迄トス ○鰯漁場ハ加古郡虎井村字八軒

沖合ヨリ本郡大塩村沖合迄トス ○鱈海鯽漁場ハ加

古郡西二見村沖合ヨリ揖西郡伊津浦マテノ間ノ藻

有ル所トス 藻ハ地方ヲ去ル凡一里半ノ沖ニシテ

海底ニ産シクニニヤリ藻ト云フ談藻ノ生ビレ所廣

湖流 常ニ南東ヨリ西ニ往来ス

水底ノ概状 海岸ニ接近セシ処ノ深サハ滿潮ノ時ハ

五尺許リ干潮ノ時ハ一尺五寸許ニシテ海底ハ悉皆

小砂利ナリ又地方ヨリ凡一里半許リノ沖ハ字底ノ

瀨或ハツマリノ瀨ト云ヒ海底一里許リノ間ニダン

ニヨリ蒙生ス

梅井村

區域 捕蛤場ハ如古郡荒井村字ハ軒沖ヨリ本村地先
字松村川沖迄凡二十丁許リノ間ニシテ地方ヲ距ル
凡二丁乃至十丁以内ニアリ

曾根村

區域 諸漁場ハ東、明石郡明石港口ヲ距ル凡二十丁ノ
沖合ヨリ西、揖西郡室津港ヲ距ル凡拾五丁許沖合ニ
至ルノ間トス

潮流 常ニ東西ニ往來ス春冬別ニ緩急ナシ

福泊村

區域 地曳手操網漁場ハ東、本村字仲濱塩田ヲ距ル沖
合ハ凡拾丁ノ処ニ在テ凡方一里ノ間トス

第四款 入會漁船ノ數

福泊村

一 地曳手操網漁場

漁船總數拾三艘

但一艘ニ付二人
或ハ三人乘

明治十九年六月調

内

飾東郡妻鹿村漁船

四艘

如古郡ニ見村漁船

三艘

本村漁船

六艘

當漁場ハ明治七八年頃迄ハ凡二十拾艘許ナリシカ
全十年頃ヨリ減シ遂ニ本文ノ數トナレリ

第五款

漁具

第一項

漁網及釣具等

漁具現數左，如之

漁具名	雜魚すり網 數量	鱈魚鱈鱈等網 全數	蛤採肩削 數	海鯽拵繩 桶數	鯛拵繩 全數	鱈鱈仔網 數量	雜魚手線網 全數
伊保壽村	一	三		三	二	六	
梅井村	一		二二				
曾根村		一		二			
福泊村						六	
合計	二	一三	二二	五一	二	六	六

第二項

漁船

漁船現數左，如之

種別	一箇五尺漁船	二箇漁船	三箇漁船
伊保寄村	二五	二〇	
梅井村			二
曾根村		二	四
福泊村		六	
合計	二五	二八	六

第六款 漁法

鰯魚漁

ズリ網 加古郡 = 同シ

打網 揖東郡 = 同シ

蛤漁

肩削 飾西郡 = 同シ

海鰯漁

採縄 明石郡 = 全シ但一艘 = 二桶ヲ積ミ一人毎ニテ
 漕出シ「ア」ヤ「ユ」ヲ餌トシテ片手ニテ擡ヲ取り片
 手ニテ其縄ヲ藻間ニ配置シ後之ヲ揚ケ捕獲ス伊保
 村保
 調査 =

鯛漁

採縄 明石郡 = 全シ

鱸漁

坪網 飾東郡 = 同

打網 揖東郡 鰻魚打網 = 全

鯨漁

坪網 飾東郡 鱸坪網 = 全

打網 揖東郡 鰻魚打網 = 全

雜魚漁

手繰網 飾東郡 = 全

第三章 蕃殖

第一款 生産期節

水族、生産スル期節左、如之 伊保壽村 調

品名	海鰯	鱸	鱈
卵ヲ孕ミタルモノヲ 初メテ捕獲セシ月	五月	四月	五月
卵ヲ孕ミタルモノヲ 後ニ捕獲セシ月			
卵ヲ孕ミタルモノヲ 初メテ捕獲セシ月	十月	九月	十月

茅二款

生産場

諸魚トモ字底ノ瀨或ハツマリノ瀨、海底生藻ノ場所ニ
 産卵ニ且生育スト云フ然レモ暖和ノ期節ニハ浅所ニ移
 リ去ルト云フ又白魚ハ四月頃河口淡鹹水交リ青藻生
 ニ具底ノ泥ニエテ小石アル所ニ産卵スト云フ
伊保崎村
 調査ニヨリ

第四章

漁民

第一款

營業ノ景況

伊保崎村

鹽業ハ寛延年間已前ヨリ之ヲ管現西郡伊津浦三
管業セヒト云フ天保嘉永年間ハ漁獲盛リニモ
 政年間ハ大ニ衰頹ニ為リニ換者七八分ハ農仕事業ニ
 轉ヒリ後慶應年ノ頃一時多換アリニモ維新後相次ラ
 不換ナルヲ以テ強衰頹ノ景況ナリ鱈海鯽延縄漁ハ嘉
 永年度ヨリ創始ヨリ前記ノ如ク天保及嘉永ノ間ハ一
 休漁業盛ナルヲ以テ專換者數多アリニモ尔後漸次減
 少ニ現今ハ元具十ノ六ヲ存セルノニ故ニ捕換輸出額
 一ノ年元六百八拾余圓明治十九年八月ニテ平均一
 人ニ付一日僅カニ金拾五錢許ノ割合ニ過キスト云フ

梅井村

承村ハ元鱒、白魚、鱈、鰯、海鯽等ノ漁業者アリニカ去ル
 明治十二年地區ヲ分テ伊保崎ニ合セシ片該漁者二十
 余名ハ皆該村ニ編入セラレテ未別ニ營業スルモノナ
 之蛤漁業ハ嘉永年間ニ一時盛ナリニカ又漸次衰微ニ
 傾キ目下ハ僅カニ農間ノ餘業トナスニ過キス

曾根村

文化三年頃ヨリ創業セルモ甚々少数ニテ固ヨリ農
 間ノ兼業ナリ然ルニ明治五年頃ヨリ漸ク増加シ目下
 ハ漁船六艘漁者十二人ヲ増加セリ然レモ尚兼業ニシ
 テ別ニ著シキ盛衰ナシ

福泊村

明治七八年頃ニテハ廿五六名ノ漁民アリニカ爾後不

漁者漸次ニ農高ニ移轉スルモノアル
 至レリ斯ノ景況ナルヲ以テ捕獲一日一人ニ付僅カ
 ニ金五六錢ニ過キナルノ有様ナリ
 以上各地ノ概況ヲ記述セリ尚左表ヲ掲ケテ郡内一般ノ
 状ヲ示スヘシ

漁業概表

種別	伊保崎村	梅井村	曾根村	福泊村	合計
曳網類 全 艘	一	一			二
建網類 全 艘	六				六
繰網類 全 艘				六	六
掩網類 全 艘	三		一〇		一三
繩釣類 全 艘	五〇		二一		七一
叉釣類 全 艘		二二			二二

漁民 数人	漁船 数艘
四〇	四五
二三	二
一二	六
一八	六
九三	五九

兵庫縣

第二款 營業種別

漁業者、種別左、如之

種別	甲保壽村	梅井村	曾根村	福泊村	合計
鰻魚、細漁者	二二	二二			四四
鰻魚鱗鱗、細漁者	三		九		一二
蛤採屑、前漁者		二二			二二
海蜘蛛、繩漁者	一八		三		二一
鯛、拵繩漁者	一二				一二
鱒、鱒、細漁者	一八				一八
雜魚、手線、細漁者				一八	一八

又 漁業ニ関スル營業者、種別ヲ擧クシハ左、如之

資本主	種別	伊保壽村	梅井村	曾根村	福泊村	合計
					六	六

兵庫縣

普通漁者	雇夫
三五	五
二三	
一二	
一八	
八八	五

備考

雇夫 藥不鰯魚スリ細漁ニ使役スルモノニテ其
 数九五人計リ雇期ハ六月ヨリ九月エテ、四月
 間ニテテ雇役賃ハ其当日漁獲金ノ半額ヲ漁船及
 漁具ノ損料トシニ半額ヲ雇者被雇者ノ別ナク分
 頭配賦ノ慣行ナリ
 伊保等村調
 查ニヨル

兵庫縣漁業慣行録卷之九 終